



4冠達成

行田花手水week 及び 希望の光

令和2年4月に「コロナ禍で参拝に訪れる方々に癒しを提供したい」との思いから行田八幡神社で始まった花手水は、地域の皆さんの協力で現在では市内約100カ所に広がっています。地域の皆さんとの協働の結果が実り、「第27回ふるさとイベント大賞」の『ふるさとキラリ賞』、「第9回JACEイベントアワード」の『政府・自治体・公的団体部門シルバー賞』、「第11回プラチナ大賞」の『優秀賞(地域ブランディング賞)』、「令和5年度地域づくり表彰」の『日本政策投資銀行賞』(6ページ参照)の4つの賞に輝きました。



南河原スリッパが 21世紀商工会グランプリを受賞

11月、全国商工会連合会が開催した「第63回商工会全国大会 令和5年度21世紀商工会グランプリ」で、南河原商工会の取り組み「一伝統産業の灯火を未来へ残すために『南河原スリッパ』地場産業復興事業」がグランプリを受賞しました。手作りだからこそ履き心地と、新たなデザイン性をもつ魅力あふれるスリッパとして再生し、南河原商工会を中心に取り組んだ「地場産業の復興」が評価されました。



忍藩、桑名藩、白河藩による 三方領知替から200年

2023年は江戸時代に行われた三方領知替からちょうど200年、そしてこのお国替えの対象となった縁のある三重県桑名市、福島県白河市との友好都市締結25周年の記念の年となりました。

郷土博物館での記念合同企画展や、まちなかののぼり旗、記念御城印など、城下町ならではのイベントを華やかに彩りました。



9月 蒸気機関車「C5726号」 お色直しプロジェクト



市では本丸児童公園南側に、その美しい姿から「貴婦人」と呼ばれる蒸気機関車を展示しています。しかし、近年は劣化が激しく、再塗装のためクラウドファンディング型ふるさと納税と企業版ふるさと納税による寄付を募集しました。たくさんのご協力により、目標金額を上回る寄付が集まり、今後は蒸気機関車の塗装修繕を行い、新たなにぎわいのシンボルとして活用する予定です。

おこま
うん
いっしょ
なっか

3.4月 小学校2校が閉校し、 太田小学校が開校

3月、太田西小学校と太田東小学校が閉校し、4月に新たに太田小学校が開校しました。各校の歴史と想いは、太田西小・太田東小の両校で親しまれた校歌とともに新校へ引き継がれました。

4月 観光物産館さきたまテラスおよび さきたまテラスゾーンがオープン!

さきたま古墳公園内にオープンした観光物産館さきたまテラス。一般社団法人行田おもてなし観光局が運営し、地場産品の販売をはじめ、ソフトクリームや古代米カレーなど行田ならではのグルメを味わえます。また、さきたまテラスゾーンではキッチンカーによるフード販売などが行われています。



10の話題

2023年の行田市を集めてみました!



昨年5月8日に新型コロナウイルス感染症の法律上の位置づけが5類感染症へと変更になりました。イベントや外出する機会も増え、少しずつ「日常」を取り戻してきたのではないのでしょうか。本市でも4年ぶりに「鉄剣マラソン大会」や「行田浮き城まつり」が行われるなど、さまざまな話題が溢れる年となりました。

そして、今年には市制施行75周年を迎えます。2024年も行田市でもっとワクワクしていきますように。

6~12月

世界最大の田んぼアート! 2023年のデザインは 翔んで埼玉 ~琵琶湖より愛をこめて~

映画「翔んで埼玉 ~琵琶湖より愛をこめて~」の公開を記念し映画の主要キャラクターとコラボレーションしたデザインが話題となった田んぼアート。6月に行われた田植えイベントでは映画に出演するキャストも駆けつけ、総勢675人で2.8ヘクタールの巨大な田んぼのキャンパスに図柄を描きました。12月4日に稲刈りを終え、今年の田んぼアートも盛況のうちに終わることができ、また2024年に向け準備を進めます。11月23日に公開された映画では行田市も脚光やディスリを浴びているようですので、ぜひご鑑賞ください。



4.7月

鉄剣マラソン大会、浮き城まつり コロナ禍を経て 4年ぶり開催!



鉄剣マラソン大会が4月に開催。総勢2,302人が古代蓮の里やさきたま古墳など市内を颯爽と走り抜け、4年ぶりの開催を喜ぶ姿が見られました。また、7月には「市民祭 行田浮き城まつり」が待望の開催。市民に愛され続ける「だんべ踊り」では「そーれ、そーれ」と大きな掛け声が上がリ、4年前と変わらない活気に満ち溢れました。

10月

県内初! こどもまんなか 駐車場制度

市は「こどもまんなか応援サポーター」に就任しました。子供たちが健やかで幸せに成長できる社会の実現に向け取り組んでいます。その一つとして、1~6歳のお子さんの保護者などを対象に優先駐車区画利用証を交付し、「こどもまんなか駐車場制度」を市独自で行っています。また、切れ目のない支援を行うために12月に「子ども未来基金」を創設しました。



6月

行田市が中心となりスタート 東日本初 地域連携型「御墳印」

古墳観光の裾野を拡大することなどを目的に、本市を中心に近隣5市1町(熊谷市・羽生市・東松山市・深谷市・久喜市・吉見町)が連携し、御朱印の古墳版「御墳印」の販売を開始。現在、川越市や愛知県、三重県古墳も追加され、地域を越えて御墳印の輪が広がっています。

